

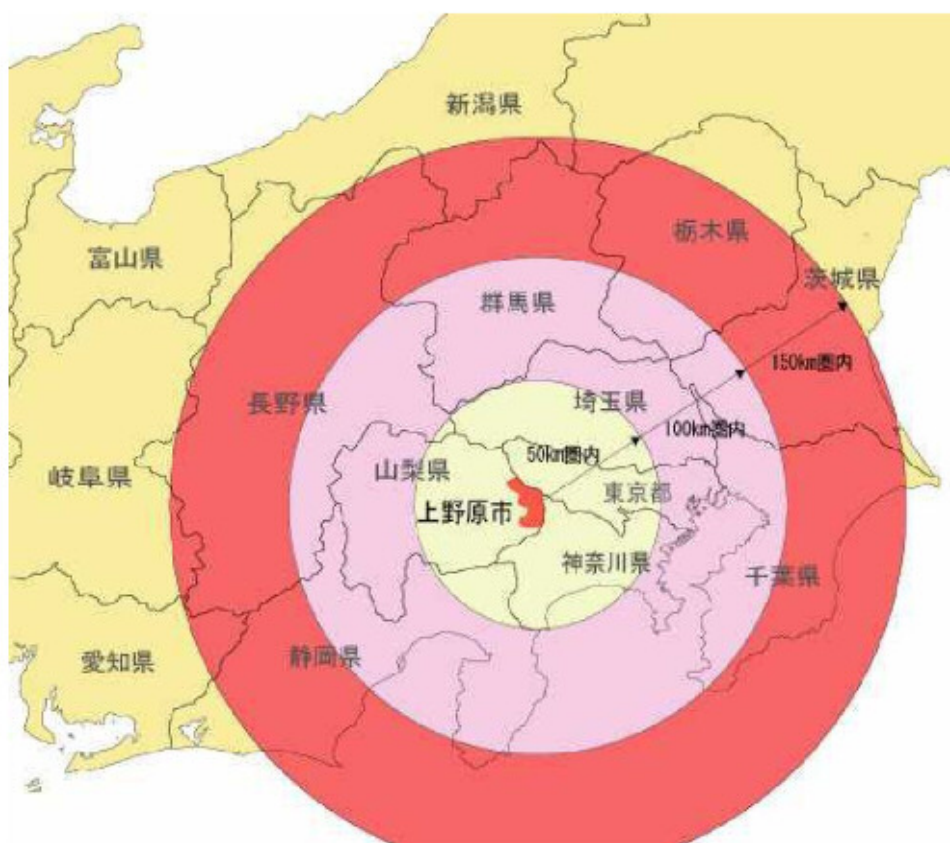
## 第2章 上野原市の現状と課題

### 2-1 上野原市の現状

#### (1)位置・面積

本市は、山梨県最東部で、首都圏中心部から約60～70km圏に位置し、東は神奈川県相模原市、西は大月市と都留市、南は道志村、北は東京都西多摩郡と隣接しており、南北方向に21.6km、東西方向に15.3kmで、面積170.65km<sup>2</sup>となり、県土の3.8%を占めています。

また、中央自動車道上野原インターチェンジ、JR中央本線上野原駅・四方津駅および国道20号・主要地方道（四日市場上野原線、上野原あきる野線、上野原丹波山線および大月上野原線）があり、首都圏から山梨県への東玄関口として重要な交流拠点となっています。



出典：上野原市長期総合計画

## (2)合併の経緯

上野原町と秋山村では、本格的な少子・高齢化社会をむかえ、国・県の合併推進に伴う特例を活用し、行財政基盤の安定・強化を図るとともに、地域の個性を活かした地域づくりを推進するため、以下の流れで合併が進められました。

年 月 日	経 緯
平成 14 年 12 月 6 日	法定協議会設立についての要請書を提出
平成 15 年 3 月 20 日 ～平成 16 年 1 月 13 日	第 1 回～第 8 回 上野原町・秋山村合併協議会
平成 16 年 2 月 4 日 ～平成 16 年 2 月 12 日	「合併に関する住民意向調査」を実施
平成 16 年 2 月 27 日	合併協議会として合併を是と決定
平成 16 年 2 月 27 日 ～平成 16 年 11 月 2 日	第 9 回～第 15 回 上野原町・秋山村合併協議会
平成 16 年 11 月 9 日	合併調印式
平成 17 年 2 月 13 日	上野原町・秋山村が合併し、「上野原市」が誕生

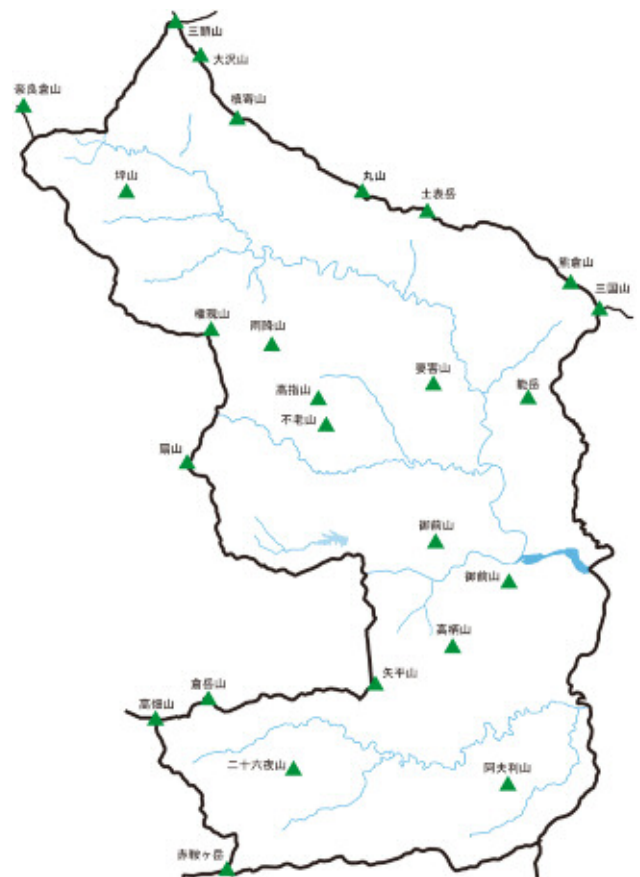
## (3)地勢

本市は全体的に起伏が激しく平坦地が少ないという地形的な制約によって、市街地や集落地は河岸段丘上に形成されています。

また、地域内を流れる桂川、秋山川、鶴川、仲間川およびそれらの支流によって形成された河岸段丘が市街地の基盤を形成しており、山岳、段丘および河川が作りだす自然環境は、日照時間が長い等様々な自然特性に恵まれています。なお、桂川および秋山川はともに相模川水系であり、神奈川県における主要な水道供給源となっています。



・桂川の流れ

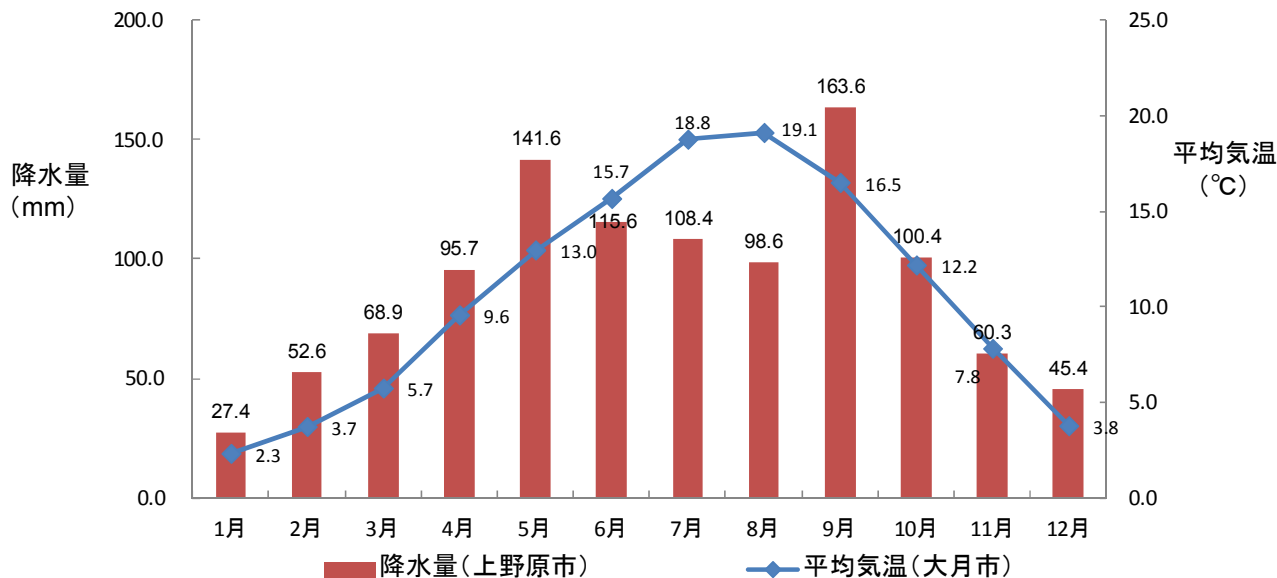


## (4)気候

気候は、周囲を山々に囲まれた複雑な地形に左右されることが多く、夏冬の寒暖差、昼夜の温度差が大きい内陸性気候です。

降水量は、ほぼ全国平均並で、梅雨の後半から台風シーズンにあたる7月～10月頃が年間を通じて最も多くなります。

### ◆ 月別平均降水量と平均気温（平成20年～24年の平均値）



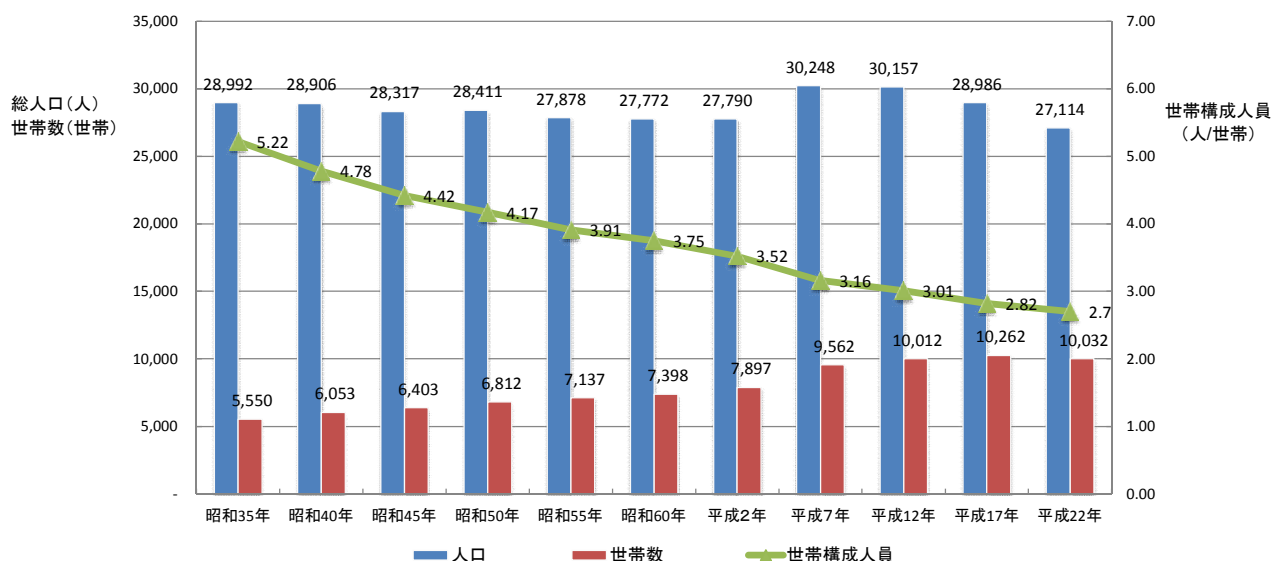
出典：気象庁 HP「気象統計情報」アメダス観測データ

\* 上野原市のアメダスでは気温観測を行っていないため、近接する大月市のデータを引用

## (5)人口(総人口・年齢別人口)

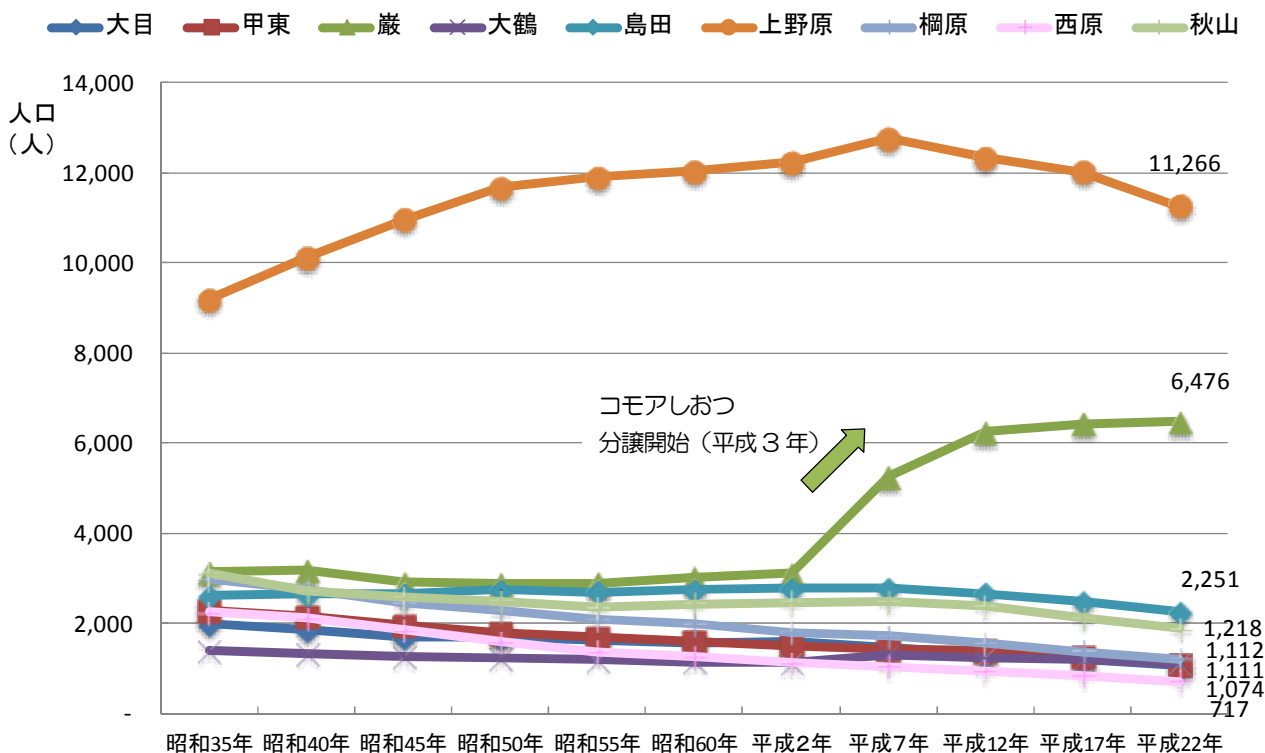
平成22年の国勢調査によると、市の総人口は27,114人であり、平成7年より減少し、世帯数は平成17年まで増加傾向でしたが、平成22年には減少に転じています。また、1世帯当たり人員数は、平成22年には2.7人と年々減少傾向となっています。

### ◆ 総人口および世帯数の推移



地区別の人口については、巖地区のみ増加を続けており、他の地区については、平成7年を境に減少傾向にあります。

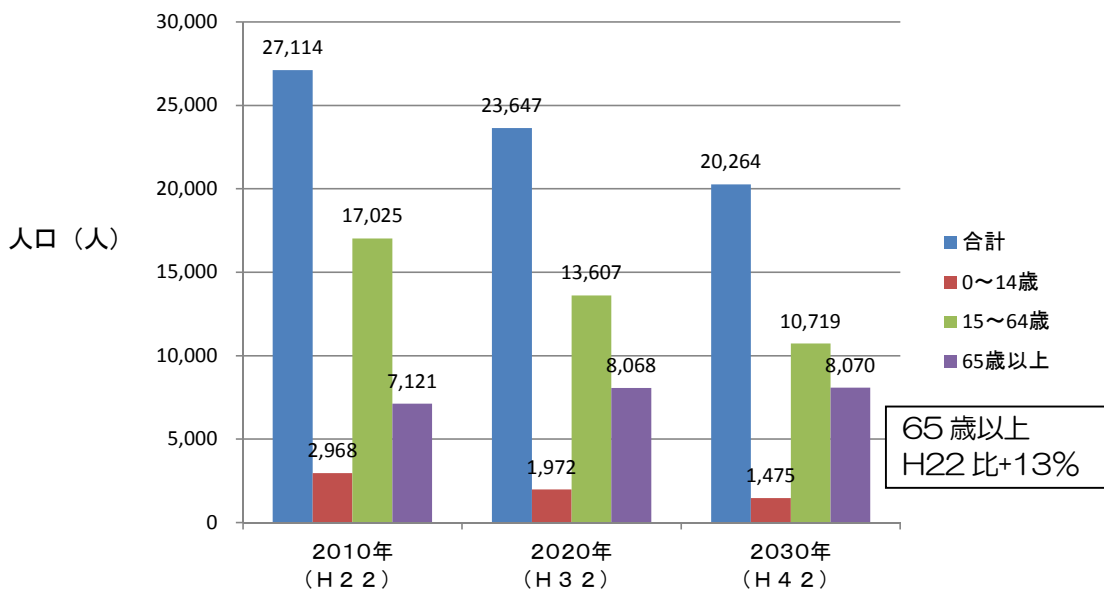
◆ 地区別人口の推移



出典：平成22年度国勢調査

国立社会保障・人口問題研究所によると本市の将来人口は減少傾向にあり、総人口は平成22年から平成42年にかけて約25%減少すると推計されています。一方、65歳以上の人口は約13%増加すると推計されています。

◆ 年齢別の将来推計人口（上野原市）

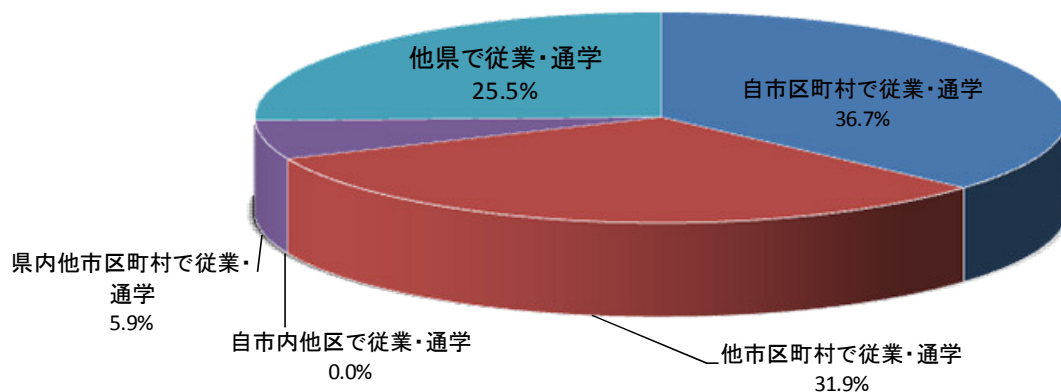


出典：国立社会保障・人口問題研究所

## (6)日常生活圏

15歳以上の市民の通勤地・通学地をみると、市内は36.7%、市外は63.3%となっています。なお、市外の内他都県は25.5%と全体の約1/4を占めています。

### ◆ 通勤・通学の状況（15歳以上）



出典：平成22年度国勢調査

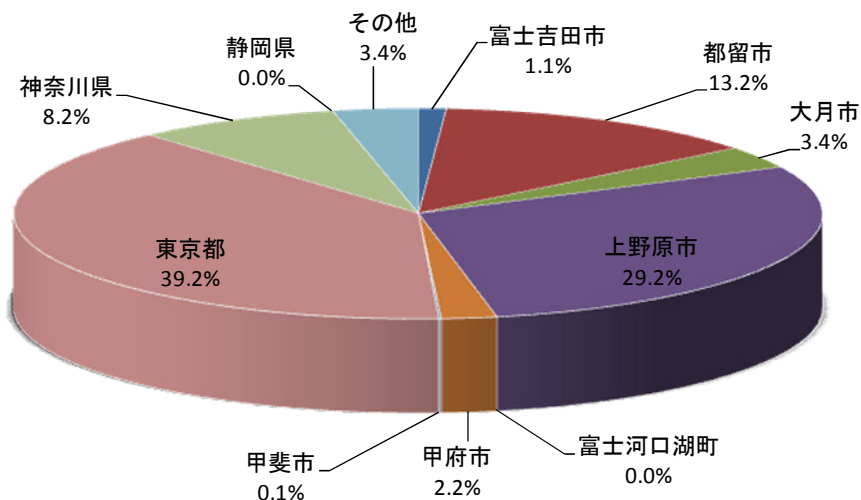
市民の購買行動をみると、食料品などでは市内での購買率が高くなっていますが、衣料品や家電製品などを含めた総合指標では、東京都が39.2%と最も多くなっています。

次いで、本市29.2%、都留市13.2%、神奈川県8.2%となっています。

詳しくみると、食料品および医薬品・化粧品は、市内での購買率が半数を超えています。一方、衣料品、文化品、身の回り品および飲食外食は、東京都が半数を超えています。

また、利用店舗別では、大型店が67.2%と最も多く、一般小売店は4.4%と地元商店街がほとんど利用されていない状況です（無回答：20.4%）。

### ◆ 購買行動の状況（15歳以上）



出典：平成22年度商圈実態調査

## (7)産業構造

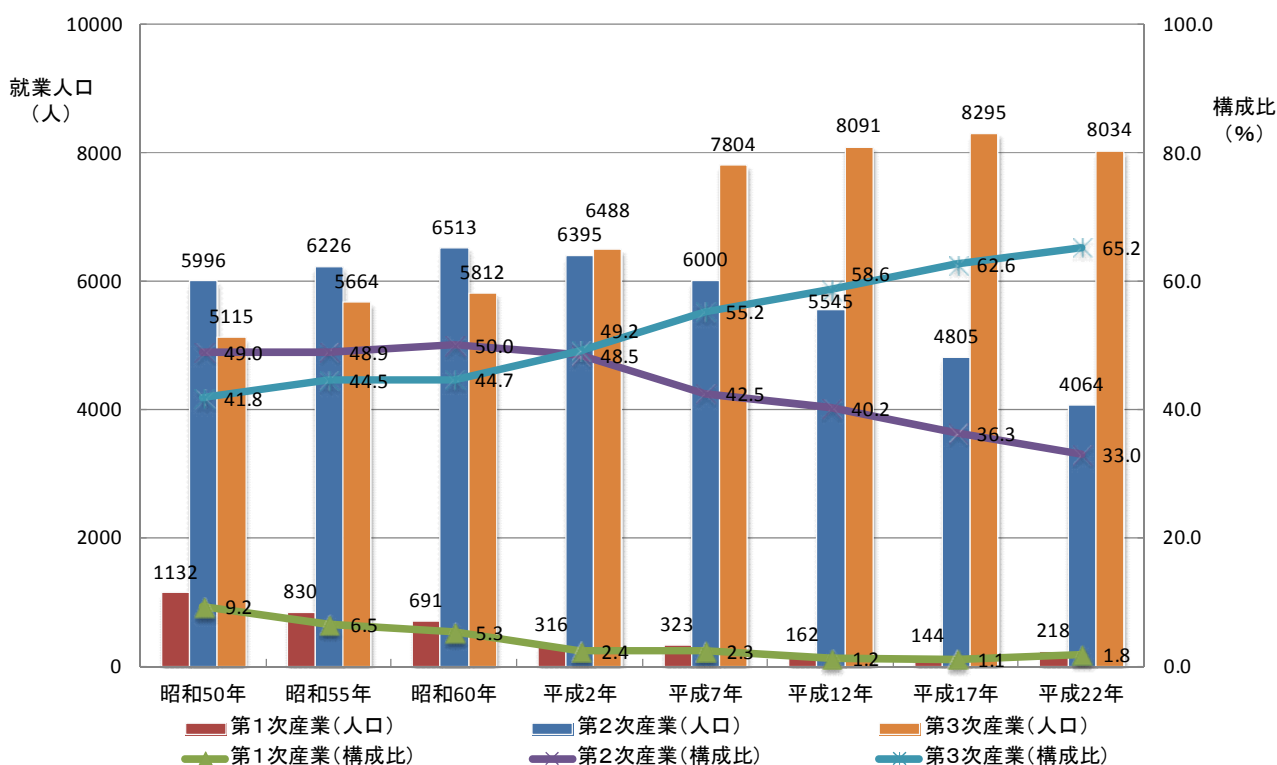
平成22年国勢調査によると、本市の産業別就業人口の構成比は、第1次産業1.8%、第2次産業33.0%、第3次産業65.2%となっています。

このうち第1次産業は、昭和50年に比べ就業人口で約1/5にまで減少しており、構成比も7.4%低下しています。

第2次産業は、昭和60年をピークに減少に転じており、構成比も16%低下しています。

一方、第3次産業は、就業人口が増加を続けており、構成比も昭和50年から平成22年までに23.4%増加しています。

### ◆ 産業別就業人口と構成比の推移



出典：平成22年度国勢調査



・ 東部基幹工業団地(上野原・東京西工業団地)

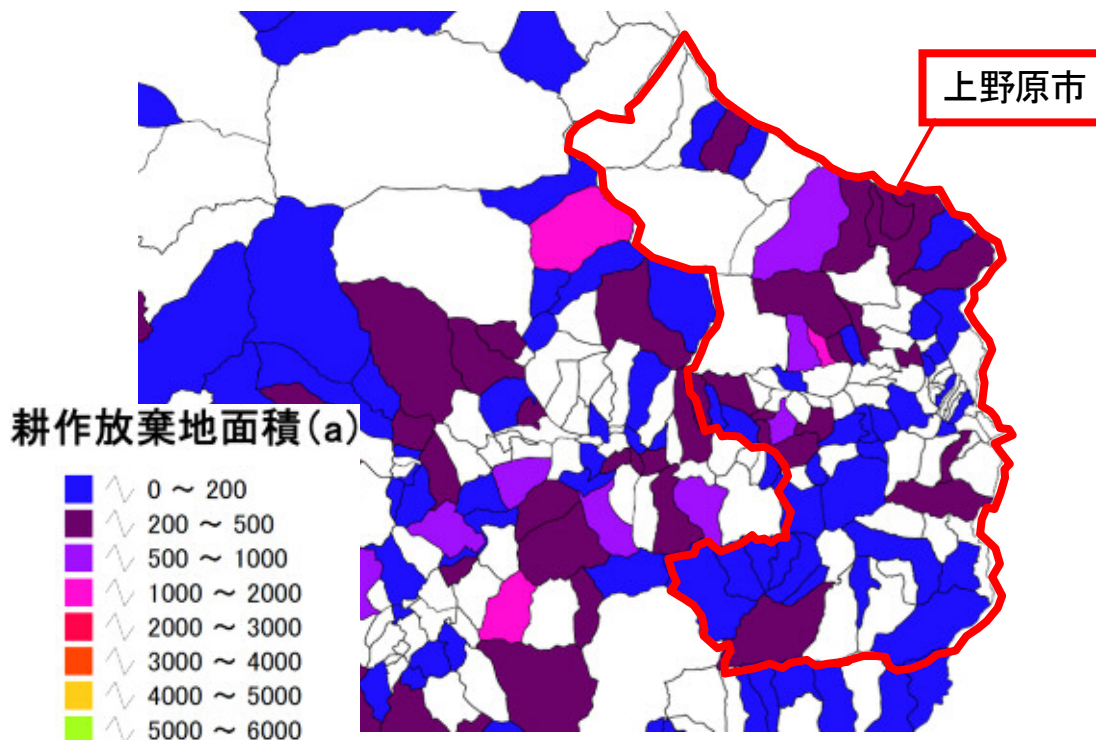


・ 上野原工業団地

## ○農業

農山村の過疎化や高齢化、後継者不足によって遊休農地が増加しており、その産業規模も年々縮小傾向にあります。また、森林の保全や有害鳥獣の問題、景観保持、多様な生態系の保全、農林業の技術伝承など多くの課題があります。

### ◆ 耕作放棄地分布状況



出典：平成 20 年世界農業センサス

## ○工業

高度経済成長期からバブル期には、上野原地区北東部の上野原工業団地（グリーンヒル 21）、ハッ沢区北西部の上野原東京西工業団地の建設および東京方面から流入してくる人口の受け皿として、JR 四方津駅北の住宅団地（コモアしおつ）等の計画的な市街地が形成されました。しかし、バブル崩壊後、経済の低迷とともに人口の都心回帰が進み、一部には未利用地がみられる状況です。

参考：効率的な生産活動に適した土地利用（出典：上野原都市計画区域マスタープラン）

県では、環境負荷の少ない内陸型産業の誘致を進めており、特に、超精密な加工分野や燃料電池等の新エネルギー分野などの機械電子産業と、医療関連機器分野や農産物を活用する食料品分野などの健康関連産業の誘致を目指しているところですが、本県内への誘致の受け皿となる工業用地が不足しています。

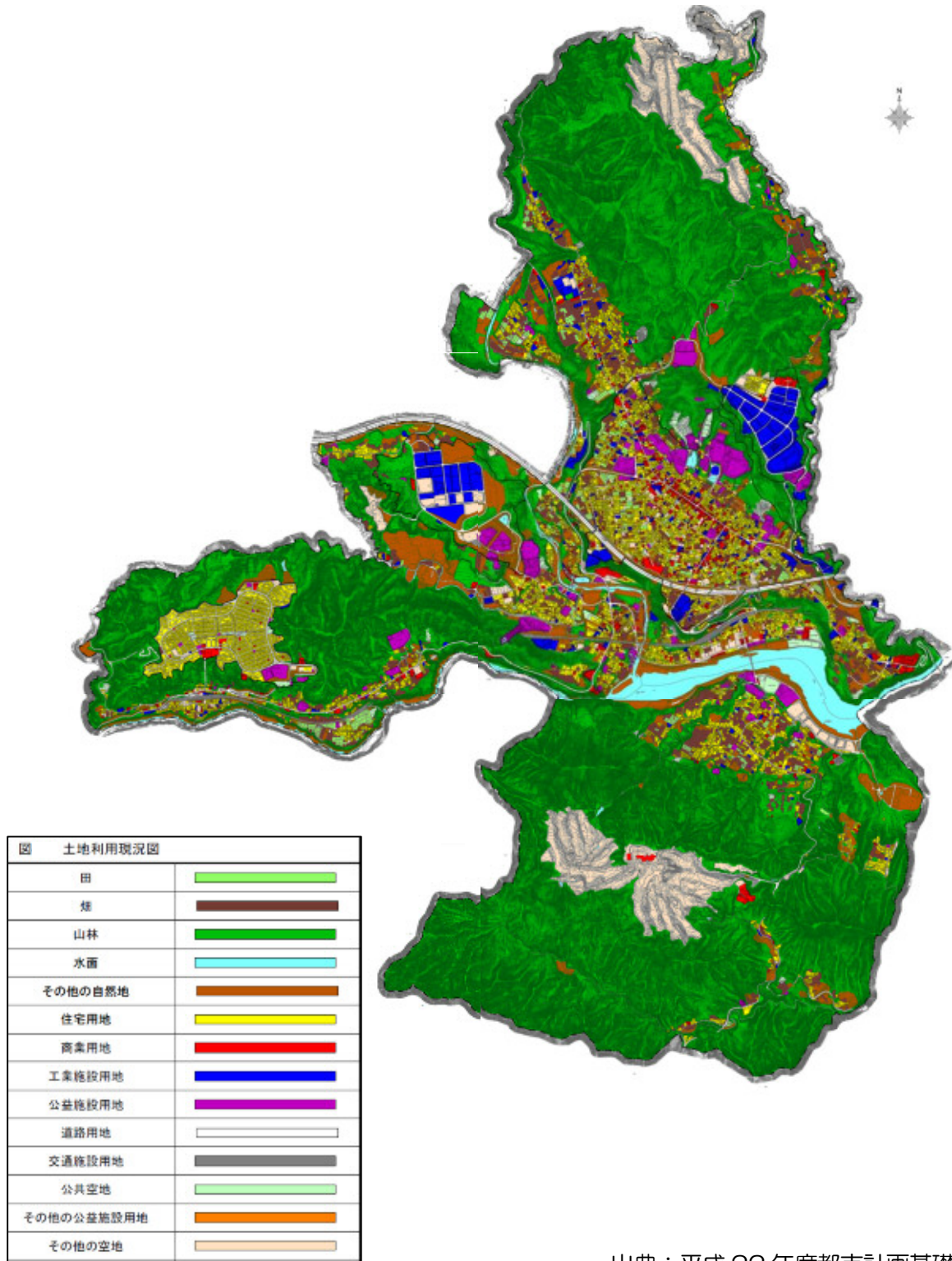
これらの特に誘致を重視している産業については、「山梨県企業立地基本計画」に基づき誘導します。なお、工業用地については工業専用地域等の工業系用途地域や特別用途地区の指定など、住宅地、農地、商業地等と混在しない適切な土地利用を図ります。

## (8)土地利用

平坦地が少なく、市全域の約80%が山林となっています。

土地利用規制については、都市計画法に基づく都市計画区域、用途地域、風致地区等の指定をはじめ、農業振興法に基づく農業振興地域や農用地域、森林法に基づく保安林、文化財保護法に基づく埋蔵文化財包蔵地などが指定されています。

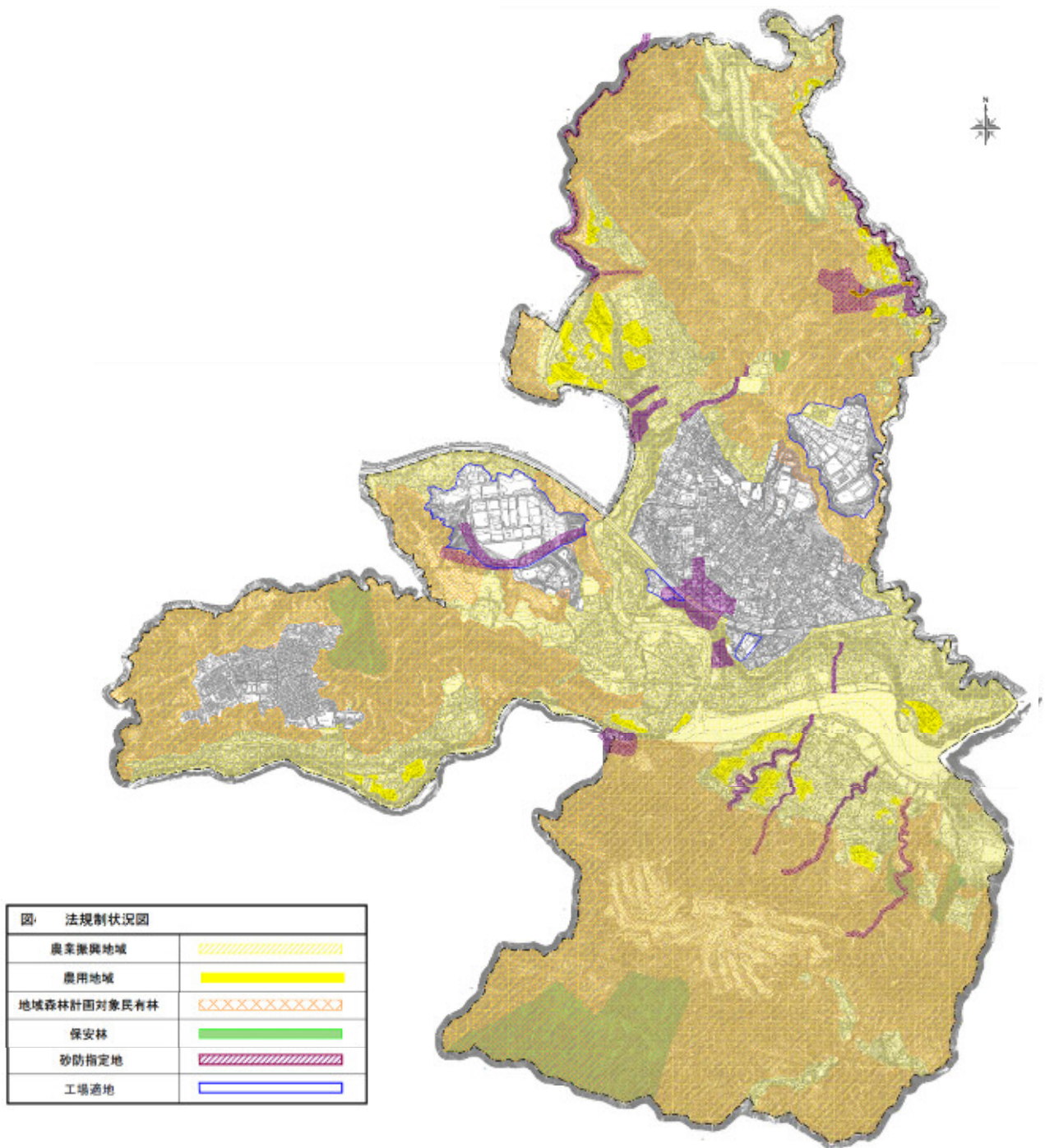
### ◆ 土地利用現況図



出典：平成 22 年度都市計画基礎調査



◆ 法規制状況図

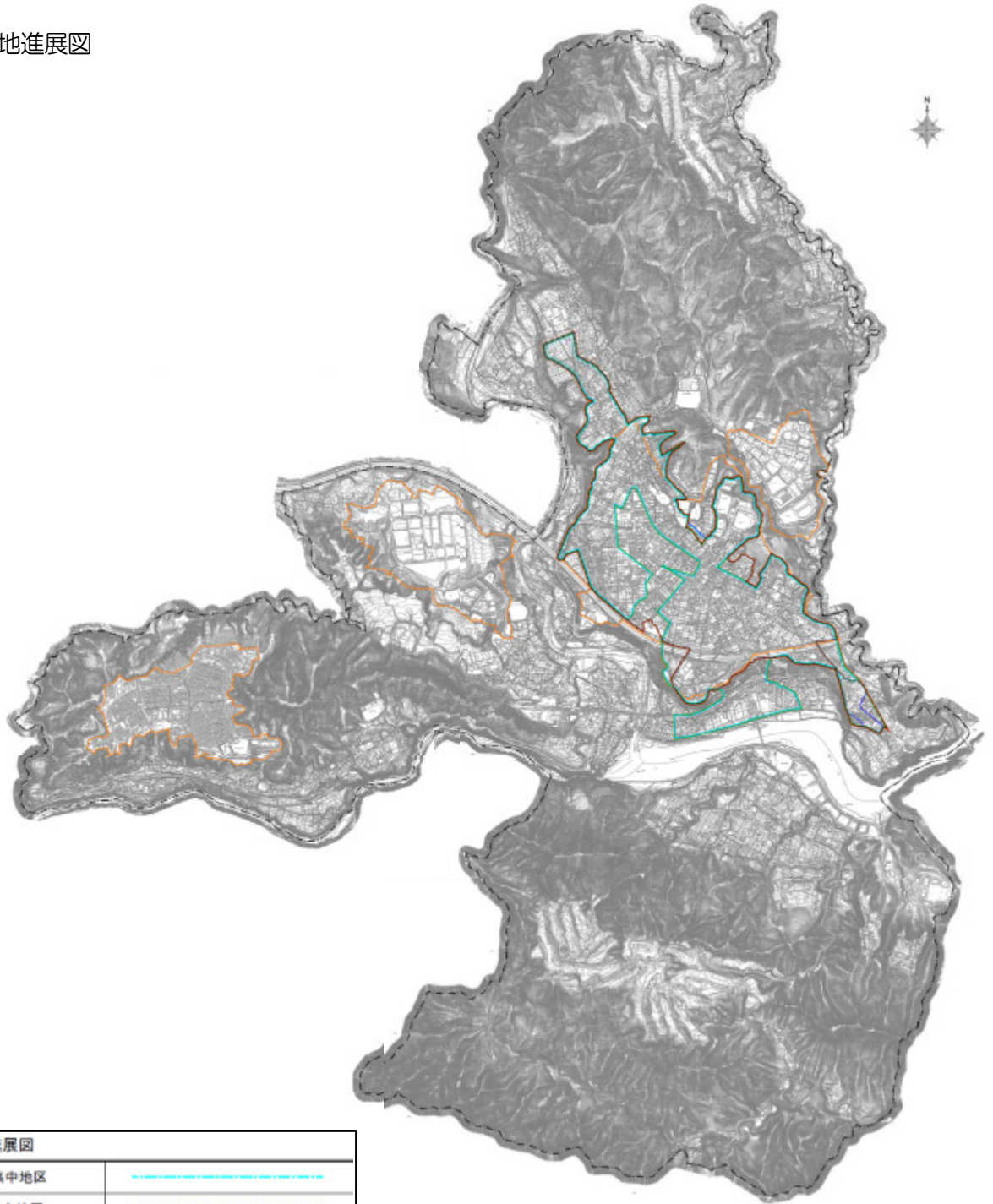


出典：平成 22 年度都市計画基礎調査

## (9)市街化の動向

市街地は、国道20号沿道周辺を中心とした上野原地区の他、島田、巖地区等に形成されています。

### ◆ 市街地進展図



S60年人口集中地区	—
H2年人口集中地区	—
H7年人口集中地区	—
H12年人口集中地区	—
H17年人口集中地区	—
用途地域	—

出典：平成22年度都市計画基礎調査

## (10)社会基盤整備・公共施設の状況

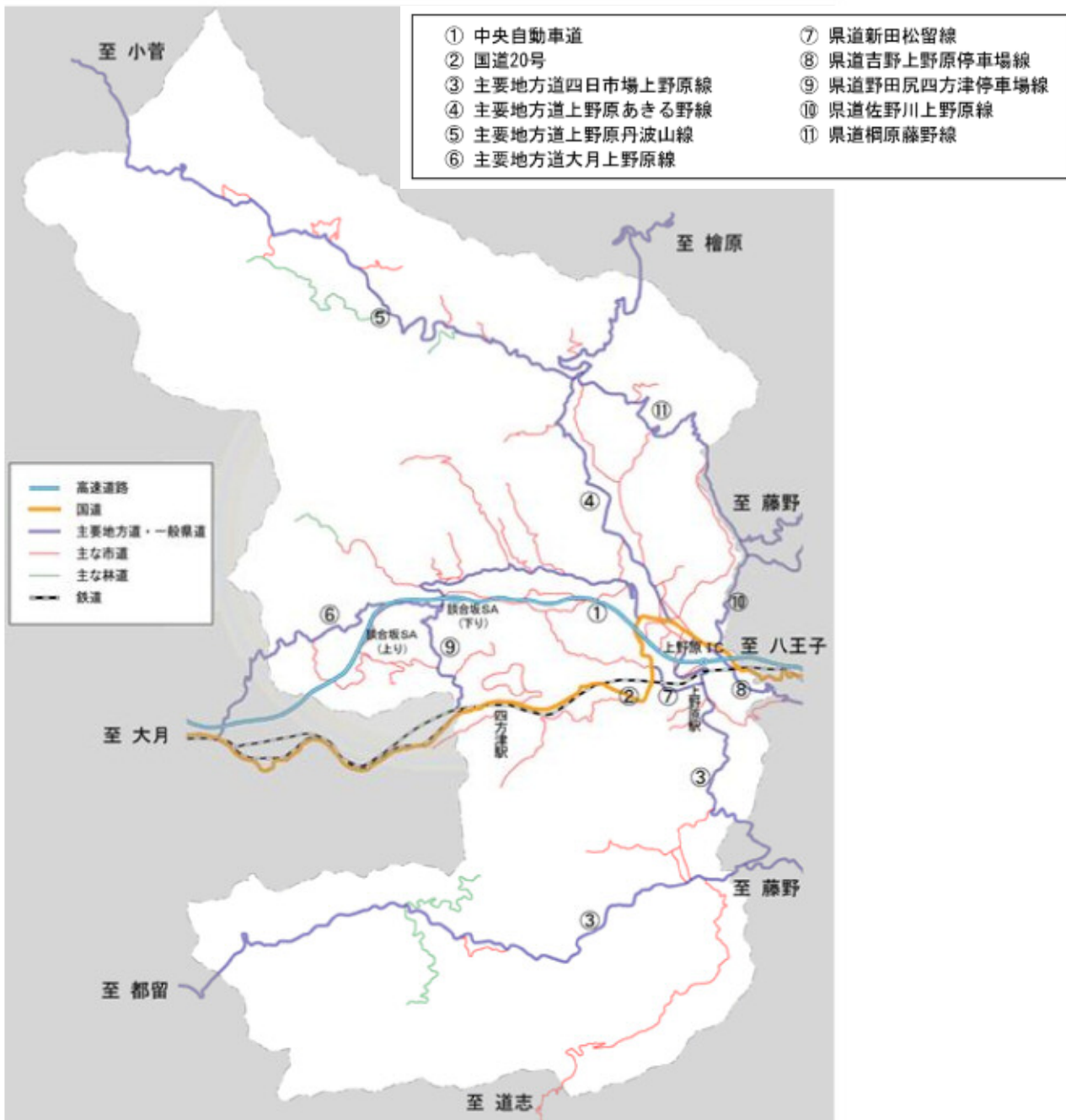
### ＜社会基盤整備＞

#### ○道路・鉄道ネットワーク

市内には、市を横断する中央自動車道および国道20号を中心に、主要地方道（四日市場上野原線、上野原あきる野線、上野原丹波山線および大月上野原線）、県道、市道が整備されています。

鉄道は、JR中央本線が市内を東西方向に横断しており、上野原駅と四方津駅があります。両駅ともに、定期券利用者が80%近くを占めていることから、通勤・通学による利用者が大多数であるといえます。

#### ◆ 市内の道路網図

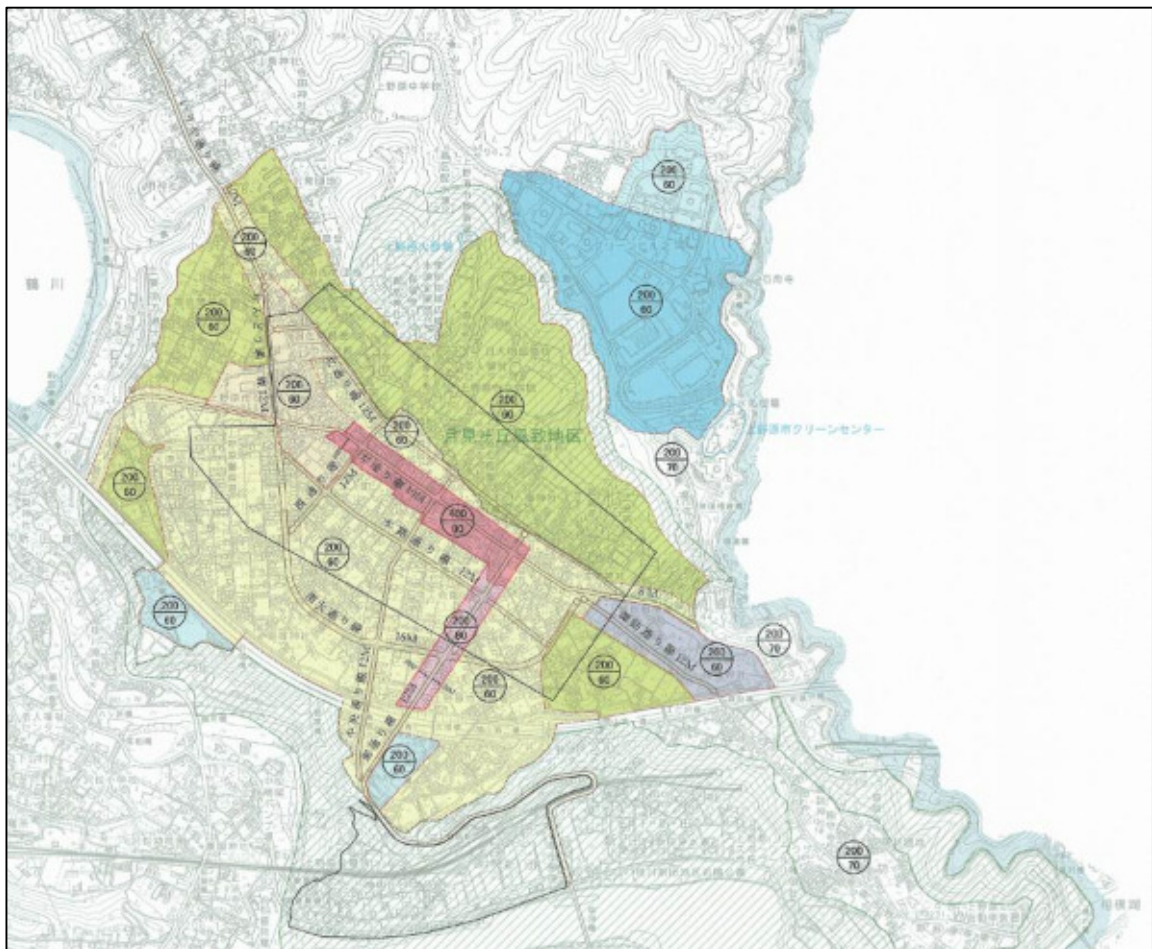


出典：上野原市長期総合計画

◆ 都市計画道路一覧

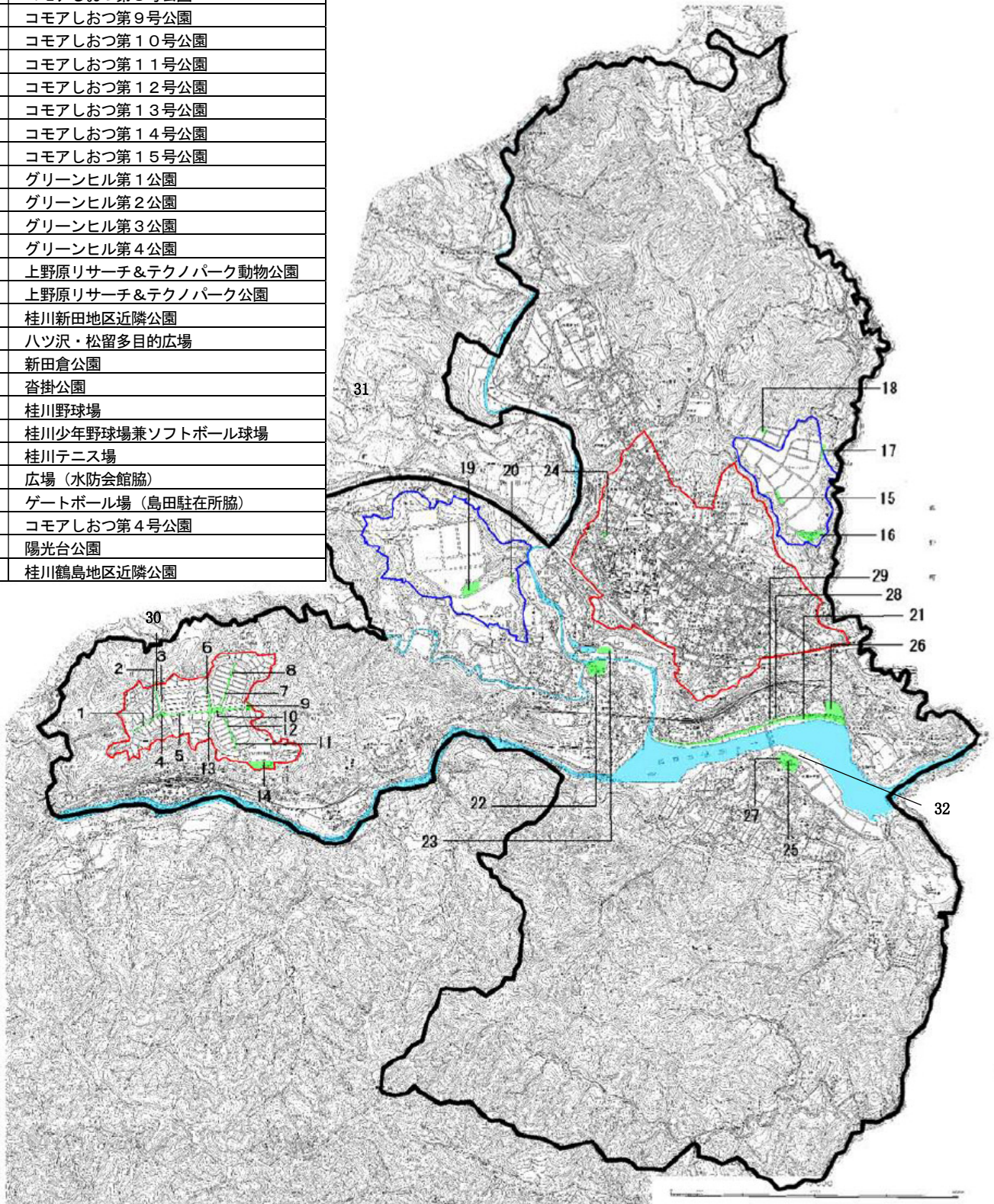
番号	路線名	起点	終点	延長	幅員	告示年月日
3・4・1	南大通り線	新一中・下新町 上野原 504	原北・大間々 上野原 3830	約 1,410m	16m	昭和 61 年 5月 22 日
3・5・1	水路通り線	新一南・下新町 上野原 624	原南・大道 上野原 2412	約 920m	12m	昭和 61 年 7月 15 日
3・5・2	北通り線	新一北・花井 上野原 1152	羽佐間 上野原 3760	約 1,230m	12m	昭和 61 年 7月 15 日
3・5・3	中央通り線	新一北・中宿 上野原 3235	新三南・稲荷原 上野原 1788	約 920m	12m	昭和 61 年 7月 15 日
3・5・4	東通り線	新二北・新町 上野原 1382	新二北・大塚 上野原 955	約 1,970m	10m 12m	昭和 61 年 5月 22 日
3・5・5	りんどう通り線	原北・大間々 上野原 3824	羽佐間 上野原 3770	約 360m	12m	昭和 61 年 5月 22 日
3・5・6	いりや通り線	新井・林の上 上野原 5134	新井・林の上 上野原 5134	約 800m	12m	昭和 61 年 5月 22 日
3・5・7	諏訪通り線	塚場・塚場 上野原 1002	塚場・塚場 上野原 1002	約 450m	12m	昭和 61 年 5月 22 日
3・5・8	西通り線	本二南・城 上野原 2119	本二南・城 上野原 2119	約 410m	12m	昭和 61 年 7月 15 日
3・5・9	本通り線	新田倉 上野原 3905	塚場・塚場 上野原 8760	約 1,740m	8m 10m	昭和 61 年 5月 22 日

◆ 都市計画道路位置図



○公園・緑地

	名 称
1	コモアしおつ第1号公園
2	コモアしおつ第2号公園
3	コモアしおつ第3号公園
4	コモアしおつ第5号公園
5	コモアしおつ第6号公園
6	コモアしおつ第7号公園
7	コモアしおつ第8号公園
8	コモアしおつ第9号公園
9	コモアしおつ第10号公園
10	コモアしおつ第11号公園
11	コモアしおつ第12号公園
12	コモアしおつ第13号公園
13	コモアしおつ第14号公園
14	コモアしおつ第15号公園
15	グリーンヒル第1公園
16	グリーンヒル第2公園
17	グリーンヒル第3公園
18	グリーンヒル第4公園
19	上野原リサーチ&テクノパーク動物公園
20	上野原リサーチ&テクノパーク公園
21	桂川新田地区近隣公園
22	八ツ沢・松留多目的広場
23	新田倉公園
24	沓掛公園
25	桂川野球場
26	桂川少年野球場兼ソフトボール球場
27	桂川テニスコート
28	広場（水防会館脇）
29	ゲートボール場（島田駐在所脇）
30	コモアしおつ第4号公園
31	陽光台公園
32	桂川鶴島地区近隣公園



○上下水道・ガス

- ・上水道：一部地域に簡易水道が敷設
- ・下水道：市街地およびコモアしおつに敷設済み
- ・ガス：プロパンガス

○ICT基盤・情報ネットワーク

- ・光ケーブル：市内全域敷設済み
- ・デジタルテレビ視聴：市内全家庭で可能

<公共施設>

分 類		施 設 名
学校	小学校	上野原西小学校、島田小学校、上野原小学校、西原小学校、秋山小学校
	中学校	上野原西中学校、上野原中学校、秋山中学校
	保育所・幼稚園	大目保育所、甲東保育所、巖保育所、島田保育所、上野原第一保育所、上野原第二保育所、桐原保育所、西原保育所、秋山保育所 沢松幼稚園
体育施設・スポーツ広場等		桂川野球場、桂川少年野球場兼ソフトボール球場、桂川テニス場 仲間川テニス場、仲間川ゲートボール場、仲間川弓道場 観光スポーツ広場、東部スポーツ広場
図書館、文化ホール等		上野原市立図書館、上野原市文化ホール、上野原スポーツプラザ市民プール、ゆずりはら青少年自然の里、上野原市勤労青少年ホーム
医療施設		上野原市立病院、上野原市立病院付属西原診療所・秋山診療所
警察署・消防署 等		上野原警察署 上野原市消防本部・消防署、上野原市消防署桐原出張所・秋山出張所
その他		上野原市葬斎場 上野原市クリーンセンター

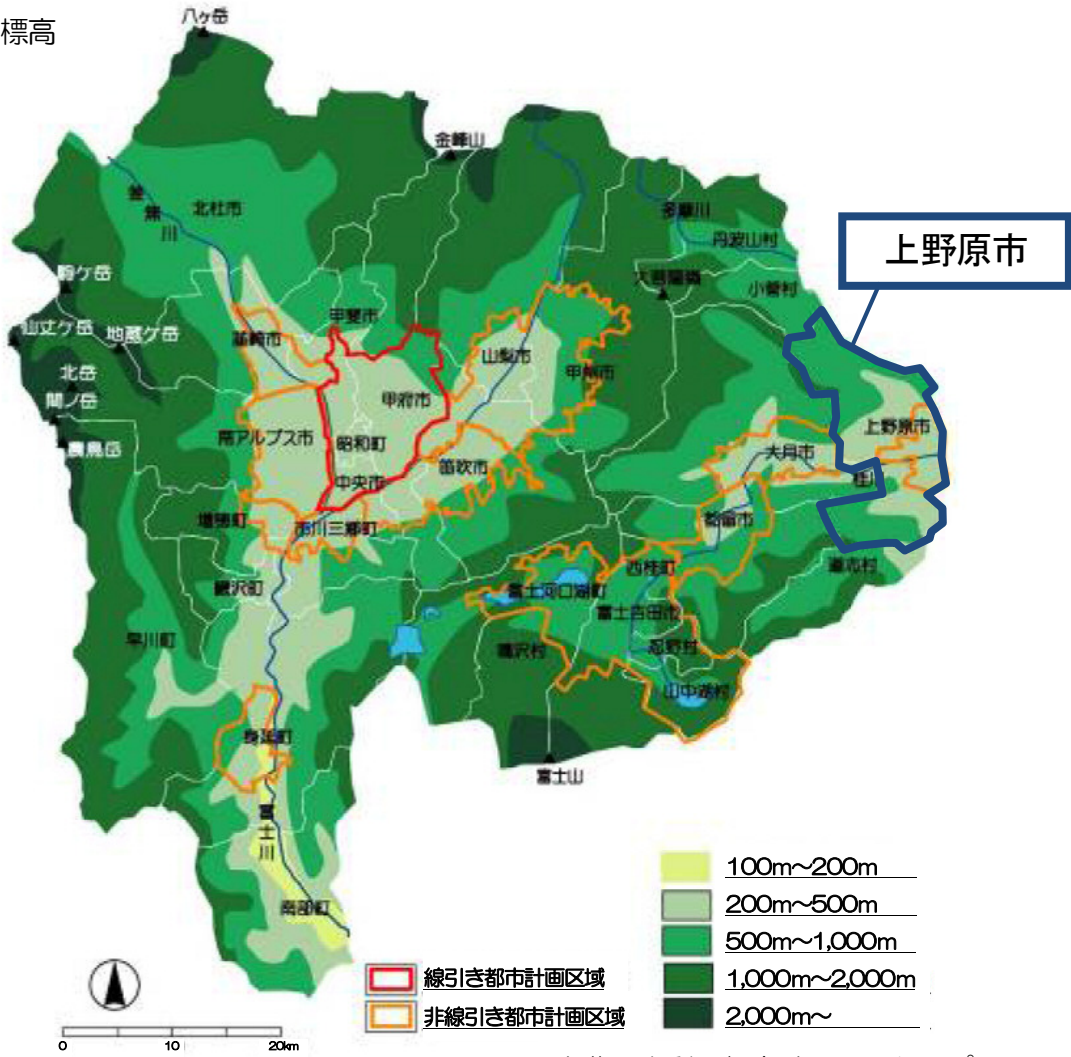
## (11)自然環境・景観

本市は、1,000m級の山々に囲まれ、溪流・水辺、動植物など豊かな自然に恵まれています。

市内には、桂川や鶴川など数多くの河川が縦横に流れており、これらの浸食・堆積で形成された河岸段丘地形が大きな特色となっています。特に、桂川は与謝野晶子が詠った美しい景観を呈しています。また、数多くのハイキングコースでは富士山の眺望をはじめ、豊かな自然景観を楽しめます。

これらの美しい風景を守るため、市内には月見ヶ丘風致地区・島田風致地区が指定されています。

### ◆ 地形条件標高



出典：山梨県都市計画マスタープラン



・桂川を中心とした河岸段丘

## (12)歴史・文化

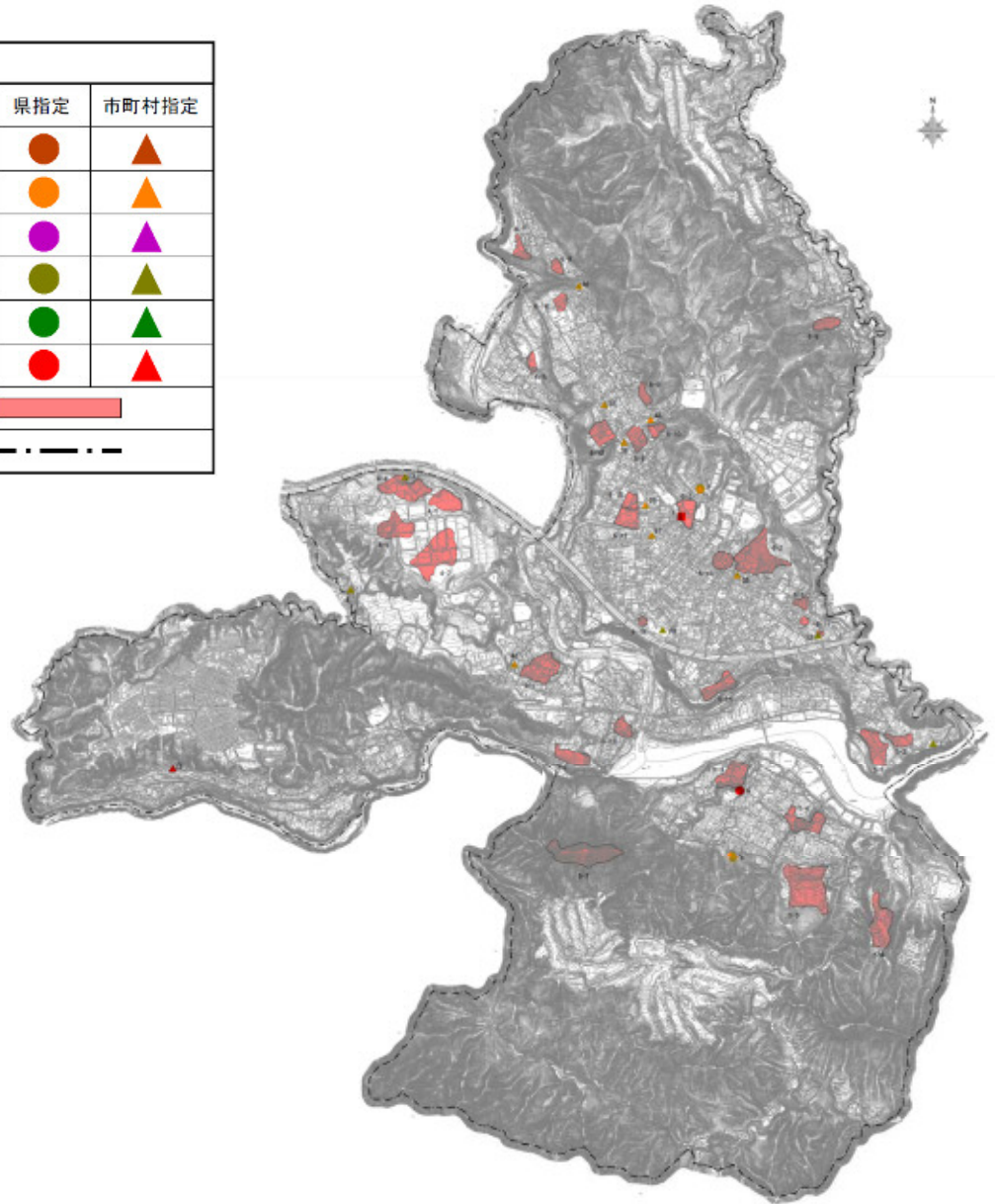
古くから関東平野と甲府盆地を結ぶ交通の要衝として栄えてきましたが、江戸時代には甲州街道の宿場町、甲斐絹を中心とした織物の町として栄えてきました。

街道筋には、上野原宿、鶴川宿、野田尻宿、犬目宿の4つの宿がおかれ、現在も旧甲州街道筋に昔の面影をとどめているところもあります。

市内には大ケヤキや鶴島のムクノキをはじめとした天然記念物や史跡、神社仏閣、西原地区の鎌倉時代から伝わる神楽などの歴史的遺産も多くみられます。

図4-10 文化財分布図

	国指定	県指定	市町村指定
建造物	■	●	▲
有形民俗文化財	■	●	▲
無形民俗文化財	■	●	▲
史跡	■	●	▲
名勝	■	●	▲
天然記念物	■	●	▲
埋蔵文化財包蔵地	■		
都市計画区域	- - - - -		



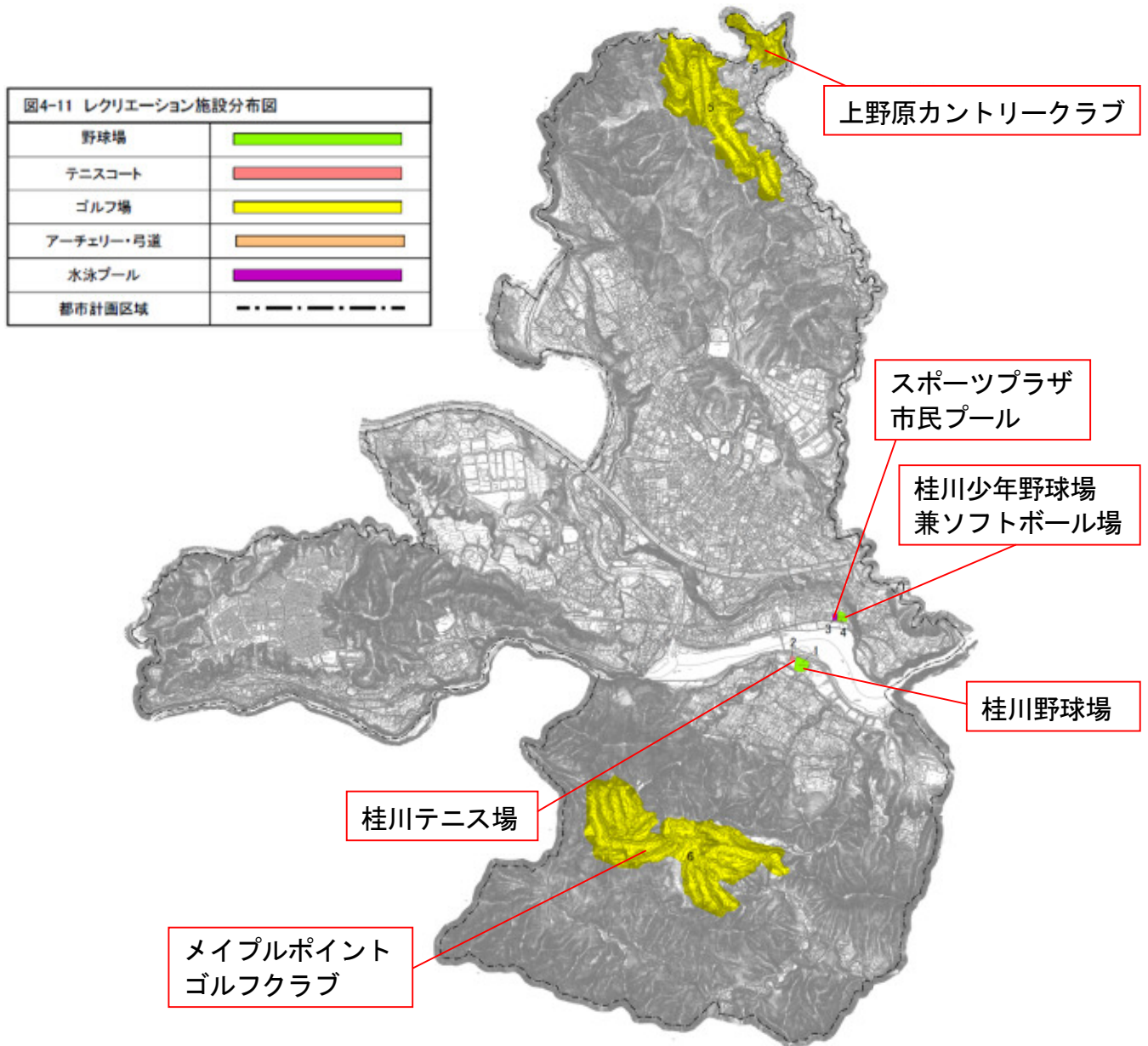
出典：平成22年度都市計画基礎調査

区分	名称
歴史・文化	上野原宿、鶴川宿、野田尻宿、犬目宿 大柵一里塚、萩野一里塚、恋塚一里塚、旧甲州街道の石畳 木造阿弥陀如来座像、木造地藏菩薩立像 軍刀利神社、一宮神社の社叢
行催事	無生野の大念仏、軍刀利神社祭典、月見ヶ池弁財天祭り、秋山ふるさと祭り、浅間神社祭典、諏訪神社祭典、牛倉神社例大祭、獅子舞奉納祭、古在家の神楽舞、西原ふるさと祭り



### (13) 観光・レクリエーション

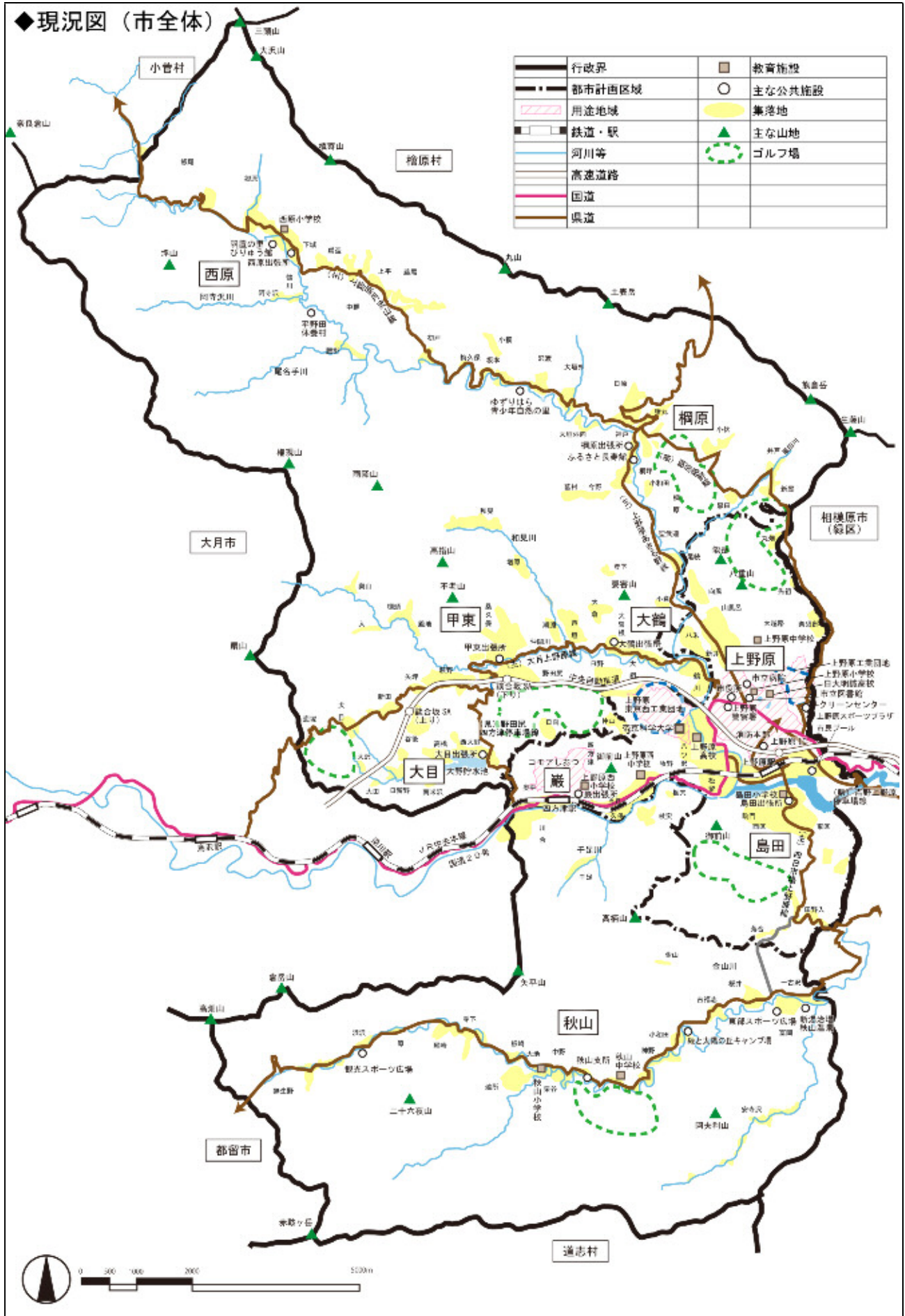
桂川・鶴川などの水辺や三頭山・扇山などの山々、美しい里山集落の風景、登山道やハイキングコース、溪流釣り場、キャンプ場、温泉など、豊かな自然環境の観光・レクリエーション資源に恵まれ、奥多摩地域とともに、首都圏近郊の身近な自然レクリエーションゾーンとなっています。



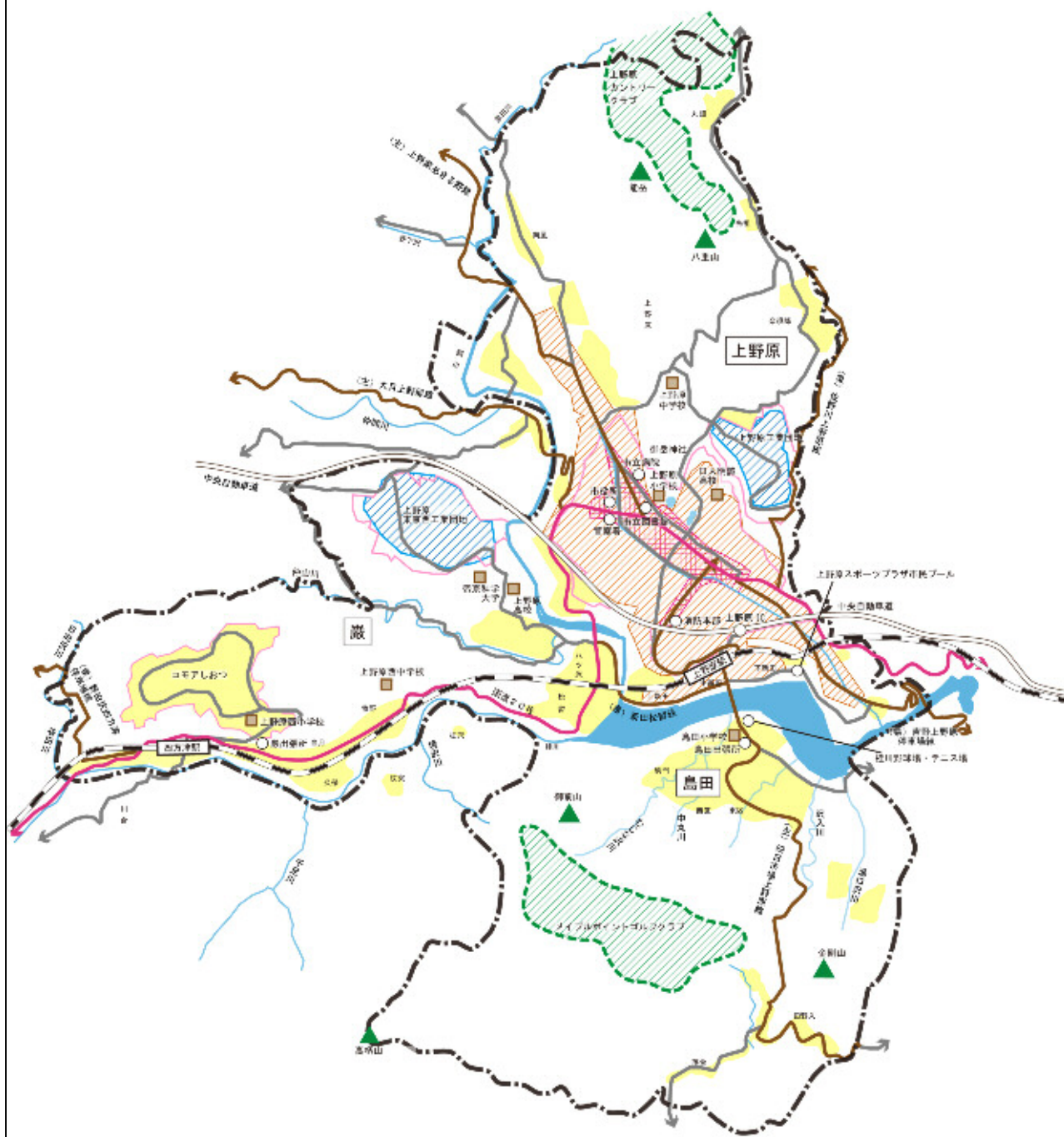
出典：平成 22 年度都市計画基礎調査

区 分	名 称
観光施設	ふるさと長寿館、羽置の里びりゅう館
温泉	新湯治場秋山温泉
キャンプ場	平野田休養村、緑と太陽の丘キャンプ場、アオゲラの森キャンプ場、さがさわキャンプ場
ゴルフ場	レイク相模カントリークラブ、オリムピックカントリークラブ、サンメンバースカントリークラブ、秋山カントリークラブ
広場	東部スポーツ広場、観光スポーツ広場
溪流釣り場	秋山マス釣場、桂川の溪流釣り、鶴川の溪流釣り、秋山川の溪流釣り
登山道	三頭山コース、坪山コース、三国山・生藤山コース、権現山コース、扇山コース、高柄山コース、矢平山コース、倉岳山コース、二十六夜山コース、赤鞍岳コース、巖道峠・阿夫利山コース
ハイキングコース・散策コース	八重山コース 大野遊歩道、上野原遊歩道

◆現況図（市全体）



◆現況図（都市計画区域）



	都市計画区域		河川等
	鉄道・駅		既成市街地
	高速道路		工業団地
	国道		ゴルフ場
	県道		教育施設
	主要な市道		主な公共施設
	用途地域		集落地
	中心市街地		主な山地



## 2-2 上野原市の課題

### (1)今後のまちづくりの課題

近年の社会情勢等の変化に対応するための課題や本市における上位関連計画などで示された課題を受け、次のとおり整理しました。

#### ◆ 今後のまちづくりの課題

<b>1 少子・高齢化、人口減少への対応</b>
○本市の人口は、平成 22 年から平成 42 年にかけて約 25%減少し、2万人にまで減ることが推計されています。一方、65 歳以上の人口は約 13%増加すると推計されています。このような少子・高齢化、人口減少への対応が求められています。
<b>2 生活行動圏の広がりへの対応</b>
○15 歳以上の市民の通勤地・通学地をみると、市内は約 37%に対して市外は約 63%となっています。また、(仮称) 談合坂スマートインターチェンジの供用開始とともに、交通ネットワークの向上も想定され、より一層市民の生活行動圏の広がりへの対応が求められています。
<b>3 価値観の多様化への対応</b>
○物質的な充実より心の充足、量より質、女性の社会進出、余暇時間の増加などに伴って、人々の価値観も多様化し、市民ニーズも大きく変化しています。今後は、こうした価値観の多様化、市民ニーズに応えるまちづくりが求められています。
<b>4 中心市街地の空洞化への対応</b>
○中心市街地の空洞化は、本市に限らず全国の地方都市の大きな問題となっています。本市の発展を支えてきた中心市街地は衰退しつつあり、まちの再生・活性化を図ることは、極めて大きな課題となっています。
<b>5 循環型社会への対応</b>
○地球の温暖化、オゾン層の破壊、熱帯雨林の減少、酸性雨などの地球環境問題への関心が高まるなか、環境負荷の軽減、リサイクルの推進など循環型社会の形成に向けたまちづくりへの対応が求められています。
<b>6 ICT(※1)と情報化社会、国際化への対応</b>
○高齢社会の進行、過疎地域の増加などにより、将来的に自治会活動の継続が難しい地域が生じる可能性もあり、災害時の避難、防犯、定期的な安否確認などの対応が求められています。また、南北に長く、集落が点在するという地理的状況を踏まえ、市内全域にわたる効率的で均質的な行政サービスを実現するために、ICTを活用した情報基盤の整備、地域情報の共有化などの対応が求められています。
※1 ICT：情報や通信に関する技術の総称です。(Information and Communication Technology)

## **7** 安全・安心なまちづくりへの対応

○近年、全国各地で発生している地震や集中豪雨・台風などによる洪水被害、土砂災害の状況を踏まえ、面積の約80%を占める急傾斜の山間地域をもつ本市は、自然災害の発生の危険性がより高い地域であると考えられます。特に、交通の遮断等による集落地の孤立化に対しては十分に備えなければなりません。加えて、高齢化・核家族化の進行、点在する中山間地域の過疎化などは地域防災組織の脆弱化を招くおそれがあり、災害時に求められる地域防災力の向上に向けた対応が求められています。

また、日々の安全・安心を提供する都市施設として、道路や公園、上下水道、住宅等の整備促進が求められています。

## **8** 地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

○首都圏に近い地理的な特性を活かした企業誘致や、恵まれた自然資源を活かした農林業の振興・グリーンツーリズムなど観光プログラムの充実といった地域資源を活かしたまちづくりが求められています。

## **9** 都市経営コストの最適化への対応

○施設整備等に関わる予算は縮減傾向にあり、限られた予算の効果的な投資が求められています。

また、人口減少や市の合併に伴い、閉鎖もしくは閉鎖予定の既存施設などが市内各所に点在します。こうした施設等を集約化し、効率的な運営管理が求められています。

## (2)都市計画上の課題

本市における「まちづくりという広い範囲での課題」は、(1)に示したとおりですが、ここでは、特に都市計画を進めるうえでの具体的な課題を整理します。

### ◆ 都市計画上の課題

#### **1** 定住促進と人口減少対策

#### **2** 上野原駅周辺整備

#### **3** (仮称)談合坂スマートインターチェンジの供用に併せた中央道の側道および周辺整備

#### **4** 風致地区条例の制定

#### **5** 中心市街地の活性化と地域拠点の明確化

#### **6** 都市計画道路の見直し・整備促進

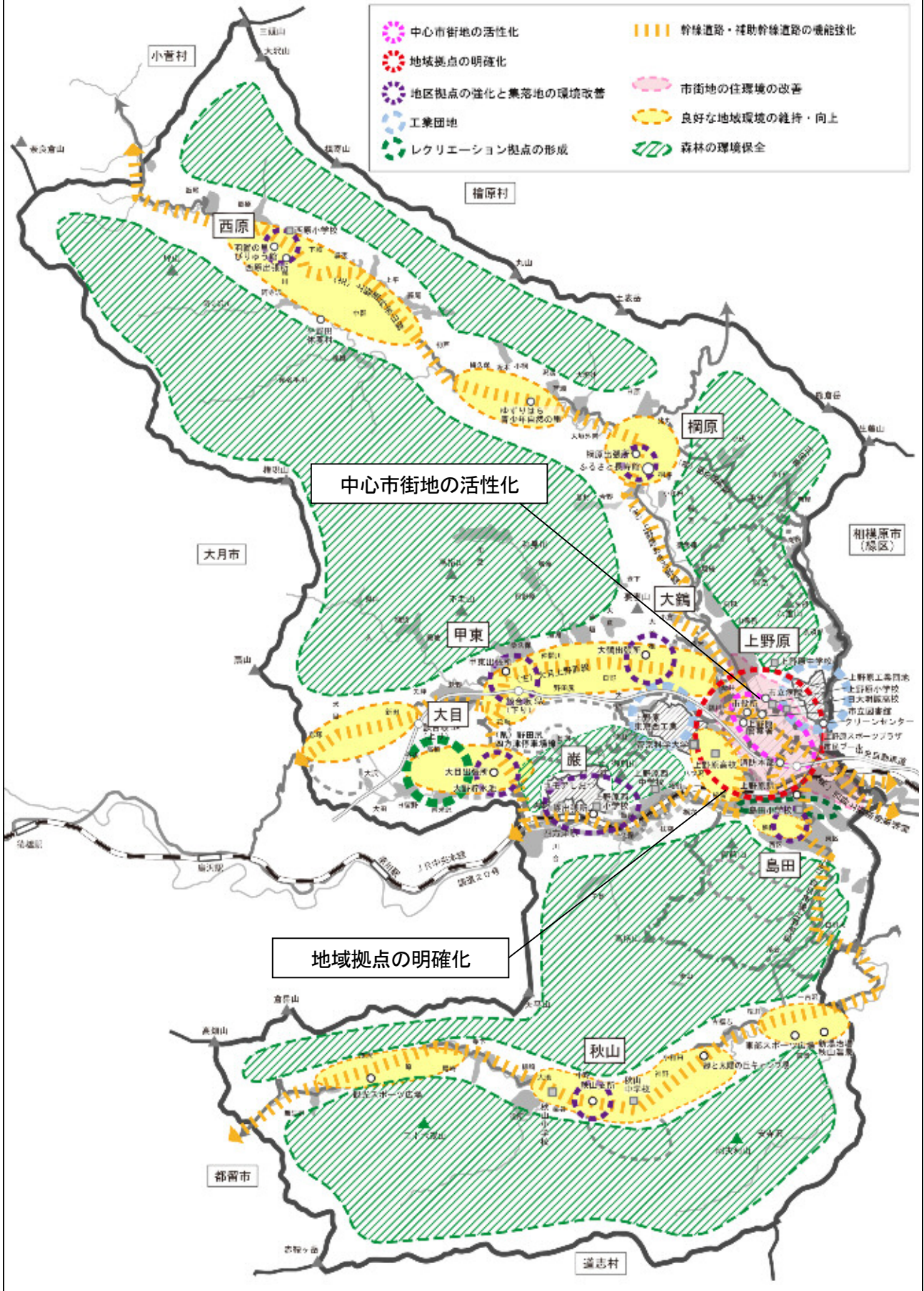
#### **7** コモアしおつ、四方津駅周辺の生活機能向上

#### **8** 自然資源を活用した農業・林業の促進(6次産業化)

#### **9** 公園・レクリエーション地域の整備促進

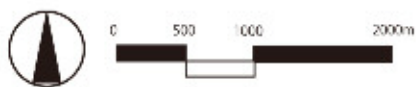
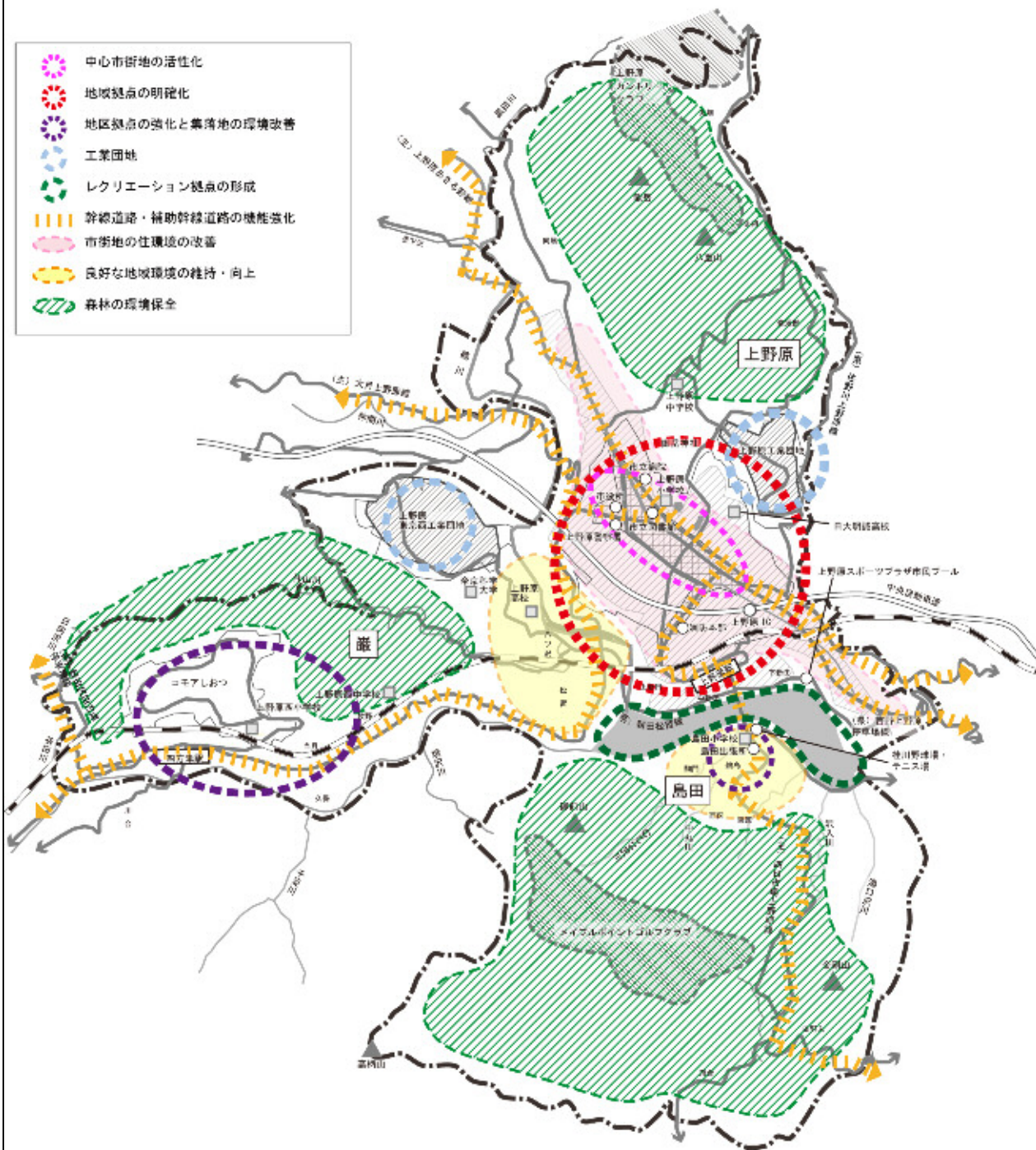
#### **10** 中山間地域における生活サービス向上に資する拠点整備とネットワーク向上

◆まちづくりの課題図（市全体）



◆まちづくりの課題図（都市計画区域）

-  中心市街地の活性化
-  地域拠点の明確化
-  地区拠点の強化と集落地の環境改善
-  工業団地
-  レクリエーション拠点の形成
-  幹線道路・補助幹線道路の機能強化
-  市街地の住環境の改善
-  良好な地域環境の維持・向上
-  森林の環境保全





• 上野原地区全景



• 中心市街地（国道20号）



• 桂川の風景